校友時報

昭和38年12月12日
編集人兼発行所
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

"生徒会をもっと活発に"
後期役員きまる

会長に能登君（二・E）

後期生徒会新役員は二年D組の本庄瑞彦君が信任された。また同時に行なわれた総会議長、並びに副議長、及び会計監査二名の選挙では議長に越前悠二君、副議長には小浜寿彦君、監査員には山口武君、松山正一君が信任された。（なお小浜君と松山君は十月十四日に行なわれた同選挙で前立候補者が不信任されたため、十月三十日の補充選挙において信任されたものこれら新役員は校内体育大会の運営、巨濤の編集などに着々と成果をあげ、生徒の期待にこたえている。

なお主な新役員は次のとおり。

▽生徒会長　能登　祐一
〃　副会長　本庄　瑞彦
▽総会議長　越前　悠二
〃　副議長　小浜　寿彦
▽委員会議長　畠　共生
〃　副議長　川上　史郎
▽会計監査員　山口　武
〃　松山　正一
▽選挙委員長　金田三千夫
〃　副委員長　菅原　信博
▽書記　成田芙美子
〃　山田　裕子
〃　吉田　操

総務局
企画部長　干場　革治
副部長　川添　能夫
会計部長　渡辺　耕佑
風紀部長　金野　正樹
厚生部長　小野寺　研

新会長の能登君はこれからの目的について、次のように力づよく語った。

「今まで、とかく不活発だと言われていた生徒会をもっと活気のあるものにしたい。そのために、現在禁止されているタバキに関しての討論会を行なうなど、生徒のみなさんの御意見を参考にして活動したい。また、卒業のための文集「巨濤」の編集にたずさわりたい。とにかく、一生懸命やってみなさんの御期待にこたえるよう努力するつもりだ」

「巨濤」の編集始まる

生徒会機関誌「巨濤」の編集が始まった。同誌は毎年三年生の卒業を記念して発行される雑誌で今年は第六号目を迎える。

編集会議も去る十一月五日の第一回以来この数を重ね、同二十八日にはさきに提案されていた記事の担当部員を決定。現在はすでに取材の段階に入っている。今年は特に「巨濤」の編集に対する部員の熱の入れようが大きいだけにその発行が待たれている。

なお今年度「巨濤」の編集部員は次のとおりである。

▽編集長・熊谷孝夫▽副編集長・川添能夫▽部員・能登祐一、金野正樹、松谷福三、松山正一、越前悠二、吉内武夫、中田潤、畠山耕一、大塚喜彌彦、本庄瑞彦、畠共生、渡辺節子、播摩谷信子、工藤典子▽顧問・白鳥邦夫先生（国語科）

四教室増築
南側便所新築
完成間近か

先月の初めから取りかかった校舎増築工事は十二月末の完成を目ざして急がれている。この増築は体育館の北側、用務員室の前から廊下に沿い、三教室、西側の便所の跡に二教室建てられる。このため物置小屋が知恵堂の向いに、西側便所が図書館への途中にそれぞれ移動された。経費は約六七〇万円このうち半分の三〇〇万円は県から、残りの半分弱が市から。あとは母校の後援会費などから支出されるがそれでも今年度分だけではたりず、少しは借金することになる。またポンプ小屋は野球部の部室にするため裏門近くに移されたこの工事と同時に女子更衣室も作られるのではないかと生徒間の話題になったが申請はしたものの校舎増築のため認められなかったという。新しくできる便所は女子用・男子合せて前の便所と比べる新しいせいか明るくて広い感じがする。新教室は普通教室で変った点はないが何よりも新しいことと話しておられた。

論説
集団と個

去る十一月二十三日早朝「ケネディ米大統領暗殺される」という意外なニュースが報道され世界は唖然とした。

そして翌二十四日に事件直後逮捕されたリー・H・オズワルドという大統領暗殺の重要容疑者がダラス（テキサス州）市内の郡拘置所に移送されようとしていたやさき、一人の男に射殺されるという二重の悲惨な事件がおこったのである。ちょうどワシントンでは故大統領の追悼式が沈痛のうちにも滞りなく進められつつある頃の出来事だった。

さてこの第二の殺人劇を仕出かしたジャック・ルビーという男であるが、彼はケネディの熱烈な崇拝者であり、動機もあまり深く考えからではなくただ大統領暗殺の私憤を抑さえ切れずにやったものと言われている。

しかし、その動機が何であったにせよルビーが法を無視し、社会の秩序を乱したことは明らかであり、オズワルド射殺事件が大統領暗殺という最大の不幸にさらに汚点を加えたことも事実なのである。たった一人の、それも一時の激情にかられた軽率な行為のために真相を明らかにしないまま命を断ったオズワルドが果して真犯人であるか否かのナゾは永久に解けないものとなり、ケネディ暗殺といういたましい事件に幕が割り切れぬものが残ったのである。我々はともすればこのオズワルド射殺事件を一単なる一人の激情しやすい男がおこした悲劇」で済ましてしまいがちであるが、その前に個が集団に及ぼす影響というものについて考えてみる必要があろう。

人間は同時もいろいろな集団に一つの個として存在している。そして集団には必ず秩序というものがありそれぞれの個はいかなる場合もその秩序を乱してはならない。たった一つでもそれを乱す個が出た時、集団はにわかにくずれやすくなり破滅という最悪の事態を招くからである。集団が一つの個の富や権力に対する愚かな欲望のため犠牲となった例は決して少なくない。

一九四五年五月第二次世界大戦のヨーロッパにおける終結に当たってナチス・ドイツの独裁者ヒトラーはドイツ国民の受ける戦禍・国土の破壊を無視してあくまで統総の地位に固執した。すでにその数ケ月前にはドイツの敗戦は明らかにされていた。ヒトラーが早期に無条件降伏に踏み切ることによって、無益なドイツの戦禍は防止され、また国の生産力を徹底的な破壊から救うことも可能だったのである。

我々は集団をよく認識すると同時に集団の中における自分を絶えず見つめていなければならない。自分の姿を集団に映し集団の中で大きく成長しなければならない。

今度の事件は、ゆっくりなるも、こんなことを考えさせた。

× × ×

明かるいお店に
きれいな文具
トトトト ノーノー ノノノ
キムラヤ
T (2) 五五三五
学生の店

スポットライト

最近またまた体育館裏の運動部室は、盗難騒ぎでこった返している。授業料等金銭を盗まれた者、時計、万年筆等の所持品を紛失した者と、被害者はあとを断たない状態である。「貴重品をうっかり制服のポケットへ入れたまま部屋へ置いたりしたら"ハイそれまでよ"である。そのため放課後は盗難の方が気になって、練習にも身がはいらないくらいだ」とぼやく者しまいには「ああ、もうクラブをやめてしまいたい」という部員も出る始末。

加害者はもちろん外部の者であろうが、いずれにせよ不名誉な話ではないか。

時評
木枯しの吹く頃に

榊田四郎

また学年末が近づいてきた。三年生には就職先の確定した人もいるだろうし、進学を志す人でもその志望先が凡その見当ついたにせよ心の中で大分具体化してくる頃だろうと思う。

このような時期になると僕はまるで次のような二つの感を特に三年生に強く受ける。そして今年もその例外ではない。

その一つは大学受験ということを前にしての焦燥感である。それは誰の場合、も極く自然な気持だと言ってしまえばそれまでだが、僕の気になるのは、不安や焦燥感が観念につかえて徒らに神経をさいなむだけで却って勉強における前進を大きく阻んでいるのではないかということである。

丁度スポーツ等で"勝ちたい""勝たねば"という気持だけがさき走って爪先だって力んでは様なプレーは出来ないと言われているのに似ている。更に角自分の力の及ぶ限りせい一杯のことをするだけしか自分に残された途はないと観念した時に焦さが早くは来ないのだ。

もう一つは、残り少い高校生活、特に学習生活を卒業のために正むを得ず参加しなければならないノルマと言ったような印象をまま与えることである。意欲の欠如とも言えるのだろうか。残り少い高校生活を最大にエンジョイすべきではないか「意欲と言って何と対して?」エンジョイすると言って何を?」という問いが答定的な口調でずぐ出てくるかもしれない。

それならこの機会にじっくり考えてみようではないか。一次元的な直接的な答がすぐに出てこない問題であればおざらのこと。（教諭、英語科主任）

論点

いよいよ本格的な冬将軍到来とあいなった。なんてもことしの冬は寒さが早くやって来て、例年になく きびしくしかも長く続きそうだとのことである。市外より通学している生徒諸君にとってはまたまた悩みのたねになるであろう▼"遅刻"とは高校生につきものようになってきてるのだろうか。最近ではもう一クラスに二、三人の常習者がおり、日によっては五六人をオーバーすることもある。出席簿に出たのだけで、十二月一ケ月間では、なんと二九二名（一年一九名、二年一〇五名、三年一五八名）一日平均一年一・一名、二年四・一五名、三年五・六名である。その理由ということになると、大部分は汽車やバスに乗り遅れたためであって、汽車やバスの遅れて遅刻したというのは、今のところまりない▼また遅刻者の内訳をみると以外にも市内の者が多数を占めており、市外の者はさわめてすくない。市内の者が多いというのは変な話だが、何のことはない精神そのものがたるんでいるからであるたしかに朝の寒さはきびしく、暖かいふとんから、なかなか外へ出にくいものである。しかし、人に負けないように、少しでも多く学ぼうとする気持さえあれば、遅刻などはありえないと思う。現に市外からの通学生の中には、まだ暗い五時前に起床しなければ間に合わないというところ（深雪、遠分など）から来る者もいるが（汽車が遅れてもしない限り）遅刻などはしていない▼そんなことを考えたら、市内の通学生は早く起きたところで七時頃だろうし、遅刻をしないというのは簡単なことではないか。実に時間的に恵まれているではないか。▼しかも一人一人の遅刻が、どんなに一時限の授業の妨げになっておることか。家庭の学習もこんな小さなことで、お互いの目に見えないロスとなっていることを知るべきである。遅刻常習者の奮起を望みたい。

記念写真・D.P.Eは引受けた
佐藤写真館
大町商店街 TEL 2—2433

カメラと材料
現像・焼付・引伸
タテベカメラ店
能代市中和通り

パンと洋菓子 Xmas ケーキ 予約受けます
エーワン・ベーカリー
大町 T 2—2343

冬の御通学には
半オーバー
ラッシュコート
ぐるっと回ってやっぱり
駅前 佐々弘 T (2) 2269

Opt メガネ
Pen 万年筆
あなたのおしゃれに！
カモヤ
畠町新銀座 TEL 2—3740

紙・紙・紙 のことなら
学用品
株式会社 塚清
TEL 2—4351